

東京農大生が 緑地工学実践

“鮫川キャンパス”で住民交流

木柵や階段を設置

東京農大環境緑地学科の緑地工学実習は八月十七日から二十三日までの七日間、鮫川村内で行われた。学生が地元住民や教員の指導を受け緑地工学を学び、村施設の整備を実践。一石二鳥の実習は村民との交流も深めた。

学生ら約六十人が十分かれ三泊四日で実施七日から二十日までした。

と、二十日から二十三日 前半組は同村農村休日までの二グループに 験交流施設「山王の里



参道に木製の階段を設置した学生ら



間伐材の木柵を取り付ける学生ら

の庭の整備に取り組んだ。施設周辺の金網フェンスを取り外し、昨年切り出しておいた間伐材と竹を利用し木柵を作り設置した。

後半組は、村が桃源郷づくりを進めている

館山公園で実習。公園内の八坂神社参道に、丸太で約八十段の階段を取りつけた。高齢者らの安全にも配慮し竹で手すりを付けた。ピオトープ予定地周辺の剪定(せんてい)作業もした。

実習期間中、学生の活動を地域住民がサポートした。作業の後は、バーベキューや天体観測を楽しんだ。